

特攻平和觀音造立趣意書

陸軍特攻隊員靈名録

序

特攻観音の縁起はその造立趣意書によるものが捷径であり

「思えば激しい戦場で一塊の肉片をも留めず無念の思を遺して散った肉身遠く異域に万斛の恨を呑んで非業の最後を遂げた同胞、惨酷な戦災を受けて痛ましい骸となった人々……それら幾多の霊は今果たしてどうなっているでしょうか。それらの間未だ真に慰められぬ無辜の霊が今もなほ我々の週辺に舞めいてゐます。……」

何んとかしてもっと温い親しい気持ちで而も何人からも拜まれる姿として、この寂しい霊を慰め且つ懇ちにお祭りする途はないものでしょうか」

右は特攻観音の母体たる平和観音造立趣意書の冒頭の書き出してあります。この会に参加されたのは海軍では及川古志郎大将、陸軍では河辺正三大将でした。

「さて、私共の敬愛追慕已まぬ特攻隊員は冒頭にあ

るように真に一片の肉身を留めずに散った模範的のものでありますが果して無念の思を遺してゆかれたでしょうか。否々それこそ死を見ること帰するが如く莞尔として操縦桿を握り……正に生ける観音様のお姿あったと今更感慨深いものがあります。

然るにこゝに万斛の血涙を呼ぶものは此の敗戦と云う現実であります。

真に必勝を信じ進で國家の礎石たらんと勇ましく征かれたこれ等英霊は果して今如何なる思で居らる、でしょうか、必ずや無限の痛恨にその魂魄も鎮まり難いものがあるのではないでしょうか。死處を得ずして残存せる私共は一言のお詫びも申さずに居ることが出来るでしょうか。特攻に關係の深かった私共の日夜苦慮しあるのは如何にしてこれ等英霊のこの恨を慰さめ冥福を祈るかであります」

これが陸軍側によびかけた河辺正三、菅原道大連名の趣意書の要綱であります。発起者は海陸夫々同志に呼びかけ昭和廿七年五月五日前首相東久邇様外多数列席の下盛大なる開眼式を護国寺に於て挙行する

の運びとなりました。翌年七月観音信仰家として令名あつし故太田睦賢大僧正の厚意により世田谷山観音寺に遷座、昭和三十年春には特攻観音のため特別の殿堂建立を祈念せられましたが可惜遷化されたのでその遺志を継ぎ賢照師の手によって由緒ある観音堂の移築を見るに至りましたのが即ち本堂であります。昭和三十一年五月十八日鎮座以来今日に至って居ります。

観音像は大和法隆寺の秘佛「夢ちがい観音」像を写したものであり高さ一尺八寸の金銅像でその胎内に特攻勇士の英名を録した巻物を納めてあります。海陸各二体を造立し一体宛を本堂に奉安してあります。海軍の一体は本業に渾身の誠意を捧げられました近江一郎氏の遺言により観音崎に、陸軍の一体は沖繩特攻作戦基地の熱望に應えて薩南の地知覧に、夫々奉安してあります。

昭和三十一年に至り特攻は独り航空のみでなく水上関係も亦同様の取扱をせるを至当と認め追加奉祀せられました。奉賛の業務は最初發起人代表で致しておりましたが逐次遺族、特志家等を包含することに

なり奉賛会として形態を備うるに至ったのは昭和三十四年五月からであり、曩には北白川房子様より献歌を賜はり近くは畏くも天皇皇后両陛下よりお花料を下賜せられました。開眼の日を記念し毎年五月五日当寺に於て盛大なる法要を執行致します外世話人の代表的な方々が毎月十八日即ち観音様の日に本堂に参集し供養、顕彰等に奉仕して居ります。

霊名録の序が欠如して居りましたので縁起並由来を略記し以て参拝者の参考に供することに致しました。

昭和四十二年二月十八日 菅原道大誌

海軍特攻隊員靈名録

大東亜戦争中祖国の護りのために我が身を弾丸として散り逝きし国民忠誠の精華陸海軍特別攻撃隊員の尊き不滅の英霊を大慈大悲の平和観音像に顕現して其の冥福を祈り又其の慈光を拝して平和世界の再建と衆生済度の功德を祈念すべく我等有志相図り大方の賛同を得て昭和二十七年春平和観音像を建立し同年五月五日東京都音羽の護国寺於て東久邇元首相の宮を初め多数参列の下に盛大なる開眼式が行はれ之を特攻平和観音と名付く翌二十八年七月世田谷山観音寺に遷座奉安されたが更に特攻観音堂の建設完成するや同三十一年五月十八日此処に奉安せられる観音像は陸海軍各一體にしてその海軍に属するものは昭和十九年十月二十五日敵の反撃に処して比島レーテ沖に於て必死必中の飛行機体当りを以てせる関海軍大尉を初めとし終戦に至る二千五百二十五名の神風特別攻撃隊員と昭和十六年十二月八日開戦劈艇を以てせる岩佐海軍大尉を初めとし終戦に至る一百五名の水中特別攻撃隊員の靈名を胎内に奉蔵しあい

是等の特別攻撃は莫大なる戦果を挙げて世界を震撼し敵の心胆を寒からしめた不幸にして戦争は敗れたがこの悠久の大義に生きた忠勇烈士の特攻精神は日本民族の血に脈々として流露しあるを示すと共に平和に処して世界人類の福祉と平和の爲めに最善を盡し得る崇高なものであると信ずる茲に尊像胎内の靈名を恭しく此の帳に奉写し以て宝前に供ふ銘に曰く

一死酬君 千載餘烈

武士如桜 標国香潔

昭和三十一年五月

特攻平和観音奉賛会世話人代表

及川古志郎

河邊 正三

清水 光美

菅原 道大

福留 潔

寺岡 謹平